

## 地域コミュニティ活動に必要な備品を整備しませんか

●お問い合わせ 企画調整課 ☎76-3807

財団法人自治総合センターでは、宝くじの社会貢献広報事業としてコミュニティ助成事業を行っています。住民が自主的に行なうコミュニティ活動の促進を図り、地域の連帯感に基づく自治意識を盛り上げることを目指し、コミュニティ活動に直接必要な備品（テーブル・イス・音響機材など）の整備に対して補助をする事業です。

皆さんの地域でもコミュニティ活動を充実させるために活用されてみてはいかがでしょうか。

- ▶ 助成金額 100万円～250万円（助成率10/10）（10万円単位）
- ▶ 募集期限 9月30日（木）まで  
書類作成等、時間を要するためお早めに企画調整課までご相談ください。
- ▶ 助成時期 令和4年度



### 令和3年度活用事例

日向区が事業を活用し、テーブルやイス等を整備しました。備品整備にかかる住民の負担軽減と、地域コミュニティ活動の活性化につながりました。

## ふるさとの文化財探訪 第89回

### 変わりゆく木・土・石の文化

文化財調査員 衛藤 銑太

私たちの生活は、周囲の自然から資源を取り出し利用し生活や生業を営んできました。自然の様が異なる地域ごとに、特色ある生活様式、生活文化が生まれ育まれてきました。

です。土といってもいろんな使われ方があり、植物を育てて食器や壺などの陶器の土として使われたり、古民家建築では土壁として使われ、土間には土と石灰と苦汁を混ぜた三和土などの建築資材として、また多目的に使われるレンガなど様々な分野で使われています。

石は石造文化として古代建造物、城壁、用水路などに使われてきました。自然素材は職人の手によって様々な生活様式を支え、歴史と文化を支えてきました。生活様式が変わり木・土・石・竹など自然素材を扱う職人が減少し、特色ある生活文化がなくなりつつある現代で、次世代の人材育成は自然素材で物造りをする職人を育成することが循環型持続可能な社会につながるのではないかと思います。

木・土・石・竹など自然素材での物造りこそ持続可能な街づくりが出来るのではないのでしょうか。



しかし自然素材は無尽蔵で、木は日本の国土の3分の2を占め自然林や人口林などの森林で覆われています。潤沢にある資源として、木から生活の必需品を得てきました。木の実を採取して食糧に、伐採して燃料とし、削って器や道具に、又建築の材料にも木を使ってきました。又伐採しても植林し木を増やすこともできます。

土は大地を形成し、全ての文化の中心

## 幸せになろうね



No.301

2021年度

### 第1回なるほど“ザ”人権講座

（今年は九重町教育委員会による主催）

昨年度の講座中止を経て2年ぶりに、なるほど“ザ”人権講座が始まりました。今年は人権部落差別問題を学ぶ上での「歩みを止めない」という思いに立ち返り、試行錯誤を重ねて感染症対策を施した上で講座開催に踏み切りました。受講生は今年もこども園・小・中のPTAの保護者28名で、全4回の講座を通して学習を深めていきます。そして今年度も、講座内容や受講生の声などをこの「心の扉」のコーナーで紹介させていただきます。

第1回の講座では「人権と向き合う～今、人権を学ぶことが、なぜ必要なのか～」と題して、隣保館の後藤大リーダーを講師に招きました。講座終了後に、本日感じたことについてアンケートを書いていただき、以下のような記述

がありました。（一部抜粋）

- ・今まで人権に対してあまり気にかけていなかったけど、あらためて今日話を聞いて人に対する接し方や、相手に対する考え方をかえていかないといけないと思ったし、人を変えることはできないけど、自分自身が変わっていけば相手も変わってくれるといいなと思いました。
- ・いじめや差別を止めることは難しい→言動や行動に同意しない
- ・「人を変える事はできない。自分を変える事はできる」ドキッとしました。
- ・子どもに対しての言葉使いをもう一度見直そうと思いました。ありがとうございました。
- ・人権は小さな子どもから、お年寄りまで大切にしていけないといけないと感じました！
- ・差別はなくならない。。。悲しい現実ですが、少しでも減っていく！！次につなげていく事が、会の意味だと思って、1人でも多くの方に、参加してほしいですね！！

紙面の都合上、詳細について掲載することができませんが、ご質問等がございましたら、社会教育課（☎76-3823）までお問い合わせ下さい。

また、第2回以降の講座については、新型コロナウイルス感染状況が落ち着いた段階で実施の予定です。

社会教育課



町長コラム

Vol.17

### とびらをあけて

九重町長 日野 康志

6月7月ではそれほど雨も降らず、昨年のような事はありませんでしたが、8月に入って台風の通過や梅雨末期のような集中豪雨が1週間続き、昨年の災害を思い出した方も多かったと思います。一部の道路の損壊や土砂崩れ、農地の災害等はありませんでしたが、人的被害は昨年同様出ておりませんので、一安心したところですが、しかし、復旧の見通しが経たない道路の損壊も出ていますので、全力を挙げて復旧に努めて参ります。

そのような状況下ではありましたが、8月11日に第5回「山の日」記念全国大会（実行委員長広瀬勝貞大分県知事）が、九重町を中心に開催することが出来ました。台風と集中豪雨の合間であり、新型コロナウイルス感染症の第5波が、まだ大分県では猛威を振るう前の奇跡の日ではありましたが、多くの来賓の皆さんや関係

者の皆さんのおかげで、無事に終了することが出来ました。ただ残念だったのは、この山の日を開催することによって、多くの観光客や山を愛する人たち、山を守っている人たち、九重町の住民の皆さんの参加を、コロナの影響で制限せざるを得なかったことです。観光をはじめ、経済が大変苦しい時期でもありましたので、この大会を契機として復活の足掛かりにと考えておりましたが、叶いませんでした。

まだまだ続く感染症ですが、感染対策は勿論、経済対策も続けながら1日も早い復活と、新たな時代への対応を考えて行かねばなりません。常に原点を忘れず現場主義を心掛け、住民の皆さんとの協働を意識しながら、支え合える町を創っていきたくと考えています。皆さんと会える機会が少なくなり、いろいろな意見が聞けない厳しい状況ではありますが、これまでも、そしてこれからも変わらぬ意思をもって接して行きます。

結びに一言、今の時代リーダーシップが大切とよく言われます。決断力や実行力が必要なのは当然ですが、その過程においていろいろな意見を聴くというコミュニケーション力が無ければ、信頼関係は創れません。信頼関係が住民とあってこそ、決断し実行できることだと思います。これからも、信頼を得られる様、誠実に努力して参りますので、宜しくお願いします。